

我が国のユネスコ活動について (平成26年3月～7月)



平成26年7月
日本ユネスコ国内委員会

本報告は、平成26年3月から7月までの活動を中心に記述しています。
また、密接に関連するものについては、日本ユネスコ国内委員会以外の活動も記述
しています。

目 次

< TOPICS >

ESD(持続可能な開発のための教育)ユネスコ世界会議に向けて	1
平成26年度ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)	4
ユネスコエコパーク新規2件、拡張1件登録	4
富岡製糸場の世界文化遺産登録	5

< 日本ユネスコ国内委員会活動報告 >

「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて	6
ユネスコ活動の更なる推進	10
教育分野における取組	11
ユネスコスクールへの取組	11
科学分野における取組	12
政府間海洋学委員会 (IOC)	12
国際水文学計画 (IHP)	12
人間と生活圏 (MAB) 計画	13
その他	14
文化分野における取組	14
世界遺産条約	14
無形文化遺産保護条約	15
ユネスコ記憶遺産	15
その他	16
各国との交流	16

< 民間ユネスコ活動 >

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	17
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	28

< 日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料 >

1. 国際会議等一覧	34
2. ユネスコ関係者来日一覧	35
3. 国内委員会会議	36
4. 国内委員会委員人事	36
5. 国内委員会事務局人事異動	36
6. 日本／ユネスコパートナーシップ事業	37
7. ユネスコ活動費補助金	37
8. 政府開発援助ユネスコ活動費補助金	37
9. 日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧	38
10. ユネスコスクール新規加盟校一覧	41

ESD(持続可能な開発のための教育)ユネスコ世界会議に向けて

ESDユネスコ世界会議PRイベント「ESDフェスタ 2014 in 東京」

「ESDに関するユネスコ世界会議」及びESDの認知促進のため、一般観客を対象として啓発するとともに、多くのメディアを誘致し露出を図ることを目的として、標記のイベントを開催しました。

1. 開催日時：平成26年6月21日(土)13:00～14:30
2. 開催場所：丸の内 MY PLAZA 1階アトリウム
(千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル)
3. 主催：文部科学省
4. 協力：全国地方新聞社連合会
5. 参加者：一般観客・マスコミ 300名程度
6. 主な内容：1) 上野文部科学大臣政務官挨拶
2) ESDオフィシャルサポーター紹介
3) ESD愛称公募表彰式
4) ESDトーク&オフィシャルサポーターミニ講座
5) ESDソングお披露目
6) フォトセッション



※環境省、愛知県名古屋市、岡山市からも、事務局職員及びキャラクターが応援参加

ESDオフィシャルサポーター

「ESDに関するユネスコ世界会議」に向けて、広く一般にESDを広報するため、6月21日(土)のESDユネスコ世界会議PRイベント「ESDフェスタ2014 in 東京」への参加を皮切りに、ESDフェイスブックへの寄稿等、各人の専門分野を生かしたPR活動を行っていただいています。



さかなクン

東京海洋大学
客員准教授



白井 貴子

シンガーソング
ライター



松岡 修造

プロテニスプレーヤー&
スポーツキャスター



山崎 直子

宇宙飛行士

(50音順・敬称略)

<主な活動内容>

- ESDユネスコ世界会議に向けて開催される関連イベントへの参加
- ESDに関するメッセージ寄稿(ウェブサイト、フェイスブック等)
- 各人の活動を通じたESDの広報・啓発 等

ESDソング

「ESDに関するユネスコ世界会議」に向けて、また世界会議後のESDの普及のため、広く全国にESDをPRするための楽曲を制作し、6月21日の「ESDフェスタ2014 in 東京」でお披露目しました。今後、ユネスコスクールを含む学校及びESD関係団体等において広く活用していただく予定です。



楽曲名: 「僕らは大きな世界の一粒の命」

作詞・作曲者・歌唱: 白井 貴子 (ESDオフィシャルサポーター)

持続可能な開発のための教育(ESD)の愛称

「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催に向けて、ESDの一般国民への理解促進及び浸透を図るとともに、国内における関心を高めるため、本年3月5日～4月25日にかけて、ESDの愛称を公募したところ、4,000件超の応募があり、審査の結果以下のとおり決定しました。

大賞作品については、今後関係者に広く活用していただく予定です。

大賞 「今日よりいいアースへの学び」

(愛媛県松山市立新玉小学校6年生 堀之内 遥奈さん)

優秀賞 「地球の未来をつくる学習」

(福岡県大牟田市立米生中学校2年生 前田 伊織さん)

優秀賞 「地球みんなのためのプログラム」

(福岡県大牟田市立倉永小学校5年生 ・ 沙織さん)



6月21日(土)に東京丸の内で開催した、ESDユネスコ世界会議PRイベント「ESDフェスタ2014 in 東京」で表彰式を行い、上野文部科学大臣政務官から、文部科学大臣賞が授与されました。

平成26年度ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)

本年度から開始した「平成26年度ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)」の対象となるコンソーシアムを決定しました。

【ESDコンソーシアム】(平成26年度補助金総額:37百万円)

- 東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材の育成とESD地域モデルの創出 (宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成によるESD推進事業 (金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム (三重大学)
- グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進 —国際(Think global)と国内(Act local)の融合— (奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業 (福岡県大牟田市教育委員会)

本事業は、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的としています。

ユネスコエコパーク新規2件、拡張1件登録

平成26年6月10～13日、ヨンショーピン(スウェーデン)で第26回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会が開催され、我が国から生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク)に推薦していた「只見」(福島県)及び「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)の新規登録、及び「志賀高原」(群馬県、長野県)の拡張登録が決定されました。これにより、我が国のユネスコエコパークは、あわせて計7か所となりました。

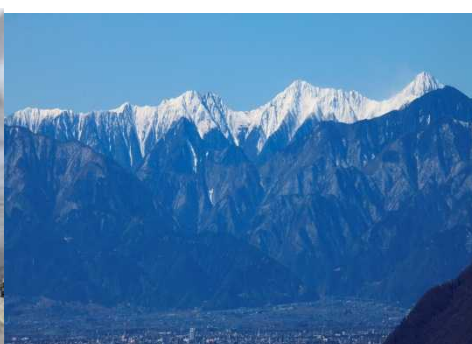


田子倉湖の春(只見町提供)

(我が国からの出席者:松田 裕之 日本ユネスコ国内委員会調査委員(MAB 分科会)、野田 孝夫 文部科学省ユネスコ協力官 ほか)



地獄谷野猿公苑(山ノ内町提供)



白根三山(南アルプス市提供)

ユネスコエコパークの登録地は、ユネスコエコパーク世界ネットワークに登録されます。ユネスコという国際機関からの世界的な評価を受けることにより、自然環境の保全や自然と人間社会との共生に関する地域の取組を、国際的にも発信し、ネットワークを通じて情報の共有化が図られることや、それによりこれらの取

組がより一層推進されることが期待されます。

また、地域における持続可能な発展に関する学習の場としての活用、自然環境の保全や持続可能な資源の利活用に関する普及啓発、持続可能な社会の構築のための人材育成への貢献も併せて期待されます。

我が国のユネスコエコパーク

- ・1980年(昭和55年) 「志賀高原」(群馬県、長野県)、「白山」(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、「大台ヶ原・大峯山」(奈良県、三重県)、「屋久島」(鹿児島県)登録
- ・2012年(平成24年) 「綾」(宮崎県)登録
- ・2014年(平成26年) 「只見」(福島県)、「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)新規登録、「志賀高原」(群馬県、長野県)拡張登録*

*「拡張登録」とは、1995(平成7)年にユネスコエコパークの機能として、「経済と社会の発展」が追加されたため、それ以前に登録されたユネスコエコパークについて、その機能を果たす「移行地域」を追加するものです。

富岡製糸場の世界文化遺産登録

平成26年6月15日～25日、ドーハ(カタール)にて第38回世界遺産委員会が開催されました。同委員会において我が国推薦物件「富岡製糸場と絹産業遺産群」を含む計26件が、世界遺産一覧表に記載されることが決定しました。(委員国(21か国):アルジェリア、コロンビア、クロアチア、フィンランド、ドイツ、インド、ジャマイカ、日本、カザフスタン、レバノン、マレーシア、ペルー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、カタール、韓国、セネガル、セルビア、トルコ、ベトナム)



富岡製糸場(群馬県提供)

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本と西洋の技術交流を基に果たされた技術革新の顕著な事例として高く評価され、4月に公表された世界遺産委員会の諮問機関(イコモス)の勧告において、「記載が適当」との評価を得ていました。

世界遺産委員会の審議では、このイコモスの勧告どおり、「記載」されることが適当との意見が大多数(18か国)の委員国から表明されました。また、イコモスとうまく連携し推薦書を作り上げた点を評価する意見や、現在の世界遺産一覧表には産業遺産が十分に反映されていないとして、この分野の記載が促進されることを望む意見も出されました。

日本ユネスコ国内委員会活動報告

「ESD(持続可能な開発のための教育)に関するユネスコ世界会議」に向けて

本年 11 月に日本政府とユネスコの共催で愛知県名古屋市、岡山市にて「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されます。本世界会議に向け、日本ユネスコ国内委員会では、国内における ESD の推進に力を入れ、様々な事業や広報活動を行っています。また、ESD の推進拠点であるユネスコスクールについても、加盟校数の増加や質の保証に積極的に取り組んでいます。

◆「ESD に関するユネスコ世界会議」について◆

(1) 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合

日程:2014(平成 26)年 11 月 10 日(月)から 12 日(水)まで

※11 月 13 日(木)フォローアップ会合

会場:名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

(2) ステークホルダーの主たる会合

①ユネスコスクール世界大会

日程:2014(平成 26)年 11 月 6 日(木)から 8 日(土)まで

会場:ホテルグランヴィア岡山(岡山県岡山市)

国立大学法人岡山大学(岡山県岡山市)

②ユース・コンファレンス

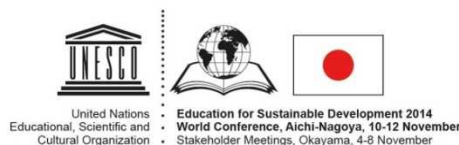
日程:2014(平成 26)年 11 月 7 日(金)

会場:岡山国際交流センター(岡山県岡山市)

③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議

日程:2014(平成 26)年 11 月 4 日(火)から 7 日(金)まで

会場:岡山コンベンションセンター(岡山県岡山市)



ESD (持続可能な開発のための教育) ~今日よりいいアースへの学び~

ESD とは、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育です。

現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことで、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

DES D 最終年合会タスクフォース及び国際ステアリンググループ(ISG)会合

平成 26 年 4 月 17 日及び平成 26 年 6 月 27 日に第 8 回、第 9 回の DES D 最終年合会タスクフォースがユネスコ本部において開催されました。文部科学省から岩本渉文部科学省参与他が出席しました。会議では、2014 年「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関するユネスコ世界会議」の会議の成果、出席者、プログラム、今後のスケジュールなどの会議準備の詳細についてユネスコと議論しました。



また、平成 26 年 6 月 24~25 日に第 4 回国際ステアリンググループ(ISG)会合がユネスコ本部において開催されました。この会合は世界各国の 12 人の ESD 専門家で構成され、世界中の様々な地域及び分野のニーズが世界会議に反映されるようアドバイスする役割を果たしています。日本からは、佐藤禎一前日本ユネスコ国内委員会副会長が出席して、プログラム、DES D 最終レポート、GAP ロードマップ、あいち・なごや宣言等について議論が行われました。ISG に引き続き 6 月 25~26 日にワークショップコーディネーター準備会合が開催され、ワークショップコーディネーターが出席し、GAP の実施に向けたステークホルダーの動員方策等について議論しました。

ISG に先立ち、6 月 17 日に日本ユネスコ国内委員会の「第 5 回国連 ESD の 10 年最終年合会に向けたワーキンググループ」を開催し、あいち・なごや宣言に盛り込むべき項目等について議論しました。

ユネスコスクール世界大会(ユースフォーラム)の参加者募集 (平成26年7月1日現在)

全てのユネスコ加盟国に募集案内を発出し、合計 5, 038 件の応募がありました。(内訳:アフリカ 1, 532 件、アラブ諸国 454 件、アジア・大洋州 1, 722 件、欧州・北米 1, 062 件ラテンアメリカ・カリブ諸国 267 件)

7 月中旬までに日本側で候補者 75 名のショートリストを作成し、ユネスコと協議後、最終的に参加者 52 名が 8 月中旬に決定される予定です。

ESD 広報媒体

「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、広く一般国民を対象として ESD 及び世界会議の周知を図るため、ポスター、チラシ、ストーリーブック及びクリアファイル等の各種グッズを制作し、効果的に配付しています。なお、全ての広報媒体に ESD 愛称を掲載し、親しみを持っていただけるよう工夫しています。



○ESDストーリーブック「ESD QUEST」

小学校高学年の児童から大人まで理解できるよう、可愛いキャラクターを用い、ロールプレイング形式にてESDを分かりやすく説明するストーリーブックを作成し、ユネスコスクールを含む、学校関係者、ESD関係イベント出席者等に配付しています。

※ESDポータルサイトからダウンロード可

URL: <http://www.esd-jpnatcom.jp/pdf/ESDQUESTstorybook.pdf>



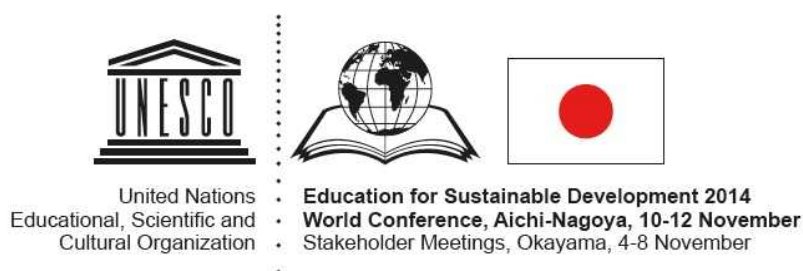
文部科学省・環境省コラボキャラクター

世界会議の開催の年を迎え、関係省庁とも連携しつつESDの更なる普及・推進を図っていくこととしており、このたび環境省が作成したESDマスコットキャラクター「はぐくん」と「ESD QUEST」キャラクターを連携させたコラボキャラクターを作成しました。今後、文部科学省と環境省が連携して行う取組に関する様々な情報発信の場で活用していく予定です。



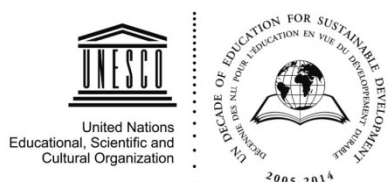
「ESDに関するユネスコ世界会議」ロゴマーク

「ESDに関するユネスコ世界会議」の周知のため、ユネスコと日本政府はロゴマークを策定し、公式な場面で活用しています。



ESD応援ロゴマーク

広く一般にESDを普及・促進することを目的として、幅広い活用を推奨しています。



私たちはESDを応援しています。

ESDは持続可能な社会づくりを目指す活動です

(ESD: Education for Sustainable Development)

ESDスローガン

「ESDは自分に関係あるもの」という意識を啓発するため、スローガンを策定。

ESD スローガン 「あなたの毎日が、未来になる。」

「自分たち一人一人が毎日身近なところから行動を起こすことが、持続可能な地球の未来につながる」という趣旨です。「ESDは自分に関係のあるもの」という意識を啓発し、ESDのより一層の普及を目指しています。

「ESDに関するユネスコ世界会議」ウェブサイト

ユネスコにおいて世界会議ウェブサイトが開設されています。

URL: <http://www.unesco.org/new/en/unesco-world-conference-on-esd-2014/>

ESDフェイスブック

ESDを更に周知するためのフェイスブックを開設しています。上記『ESD QUEST』のキャラクターも登場し、ユネスコスクールの活動紹介、ESD標語など、盛りだくさんの内容でESDを分かりやすく発信しています。

URL: <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom>



学生ボランティアの募集

ESDユネスコ世界会議は、国内でも国際的な体験ができる絶好の機会であることから、194の会議参加各国の代表団を日本の代表としてアテンドし、世界会議の運営を支援する学生ボランティアを募集したところ(6月末締切)、200名の定員に対して300名を超える応募がありました。

この「学生ボランティア」は、我が国の印象を決定づける重要な役割を担うことから、相当程度の英語力、異文化間での協調性、高いコミュニケーション能力、ホスピタリティーマインドを持つ等、グローバルな環境において十分に活躍できる志の高い学生を選考し、世界会議開催前に接遇等の研修を行う予定です。

併催イベントの募集

ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会とともに、会議の開催にあわせ、併催イベントを7月31日まで募集しています。

ESD活動を行うNPO・NGO、企業、学校等各種団体による成果発表等の場として、名古屋市中心部等において、セミナー、パネル展示、ブース出展及びステージ発表の場を提供いたします。

開催地自治体(あいち・なごや、岡山市)の支援実行委員会等

閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合が行われる愛知県名古屋市では、平成26年3月28日に「平成25年度第2回ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会」が開催され、文部科学省から加藤重治国際統括官が出席しました。会議では25年度事業報告・決算及び26年度事業計画・予算が承認されました。また平成26年6月7～8日に名古屋市内中心部にてあいち・なごや支援実行委員会が開催した「ESDユネスコ世界会議半年前イベント あいち・なごやESDフェスタ」へ文部科学省から職員が参加し、会議自体の周知やボランティア応募の広報を積極的に行いました。

ステークホルダーの主たる会合が行われる岡山県岡山市では、平成26年4月3日に「ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会第4回委員会」が開催され、文部科学省から加藤重治国際統括官が出席しました。会議では25年度事業報告・決算及び26年度事業計画・予算が承認されました。また平成26年6月1日に岡山市内中心部にて岡山支援実行委員会が市民団体と共催した、ESDに関するユネスコ世界会議開催半年前イベント「伝説のおかやまマルシェ&もっと知ろうESD」において文部科学省から「ESD QUEST」を提供し、子どもたちにもわかりやすい形でESDの周知・啓発を行いました。

今後もこのような会議・イベントを通して、開催地自治体と情報共有・連携を進め、世界会議の成功に向けて準備を進めていきます。

ユネスコ活動の更なる推進

日本ユネスコ国内委員会では、平成24年12月から、我が国におけるユネスコ活動の活性化について審議を行ってきましたが、第134回日本ユネスコ国内委員会(平成26年3月18日開催)において、「多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言」が取りまとめられました。

本提言は、ユネスコ活動の活性化に不可欠である若者及び企業の参加の促進方策(第1部)と、本年11月に我が国において開催予定のESDに関するユネスコ世界会議も見据えたESDの一層の推進方策(第2部)について、今後、地域のユネスコ協会をはじめ、ユネスコスクール、教育委員会、若者、企業等、多様な主体と連携しつつユネスコ活動を推進していく上での本委員会の指針となるものです。

教育分野における取組

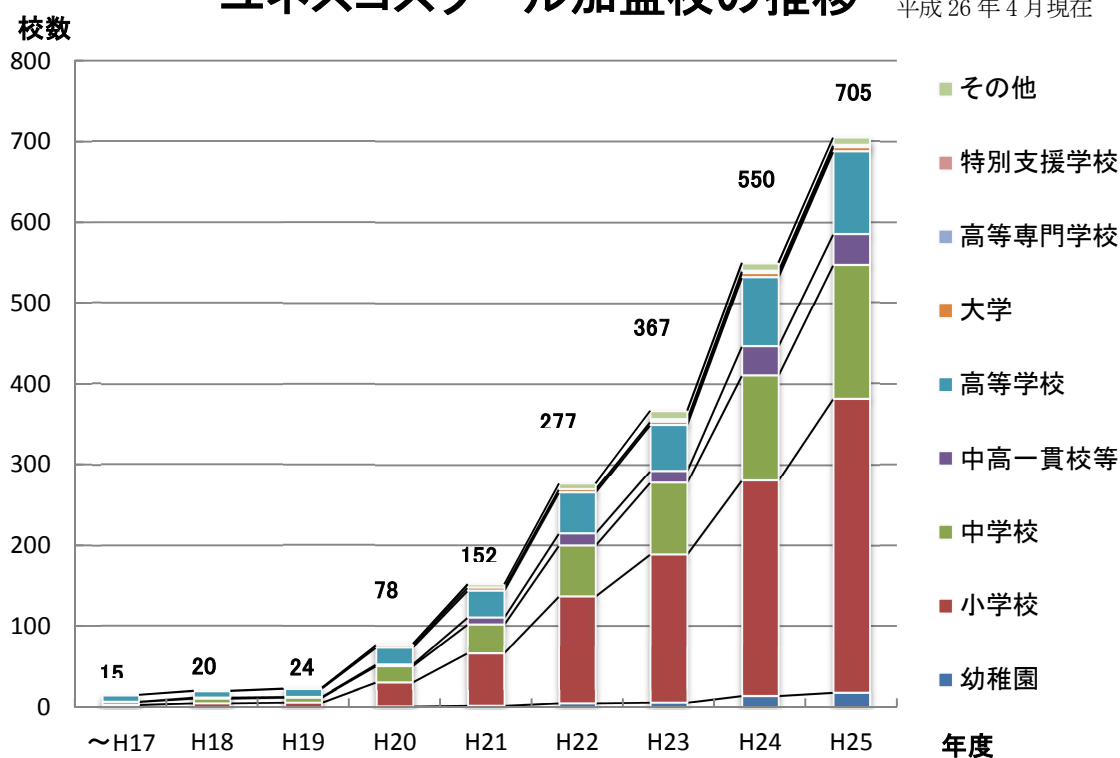
ユネスコスクールへの取組

加盟校数の増加

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として位置づけています。平成26年7月現在、世界180か国の国・地域で約9,900校のユネスコスクールがあります。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年(DESDE)」が始まった平成17年から飛躍的に増加しており、平成26年4月時点で705校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。

ユネスコスクール加盟校の推移

平成26年4月現在



	幼稚園	小学校	中学校	中高一貫校等	高等学校	大学	高等専門学校	特別支援学校	その他
~H17		3	4		8				
H18		5	6	1	8				
H19		6	6	1	10	1			
H20	1	30	20	2	21	3			1
H21	2	65	35	9	33	4			4
H22	5	132	63	15	51	4			7
H23	6	183	89	15	57	4	1	2	10
H24	14	267	130	36	86	5	1	2	9
H25	18	364	166	38	102	5	1	2	9

総計 705

※各年度の数字は当該年度の累計数

科学分野における取組

政府間海洋学委員会 (IOC)

WESTPAC 第 9 回国際科学シンポジウム

平成 26 年 4 月 22 日～25 日にニャチャン(ベトナム)で WESTPAC 第 9 回国際科学シンポジウムが「西太平洋地域の繁栄に向けた健全な海洋の実現～科学的な課題と可能な方策～」をテーマに開催されました。21 か国から約 550 名が参加、約 500 件の口頭・ポスター発表が実施され、過去最大規模となりました。日本からは、道田 豊 IOC 副議長、植松 光夫 IOC 分科会主査、安藤 健太郎 WESTPAC 諮問グループメンバー、西田 周平 ISSC 委員、福代 康夫前 WESTPAC 副議長らが参加しました。



WESTPAC Outstanding Scientist Award 受賞者

シンポジウムに合わせ、西太平洋地域にある 18 の

研究機関の代表が集まり、WESTPAC および周辺海域の研究や観測の強化方策について議論を行う「研究所長フォーラム」が開催されました。道田 IOC 副議長が共同議長を務め、今後の方策に関する共同文書が採択されました。

また、今回は WESTPAC 地域の海洋学の発展に長年にわたり貢献してきた研究者の功労表彰が行われ、日本からは福代前 WESTPAC 副議長および道田 IOC 副議長の 2 名が受賞しました。更に、35 歳以下の研究者の口頭発表およびポスター発表を対象とした若手研究者賞を日本の若手研究者 2 名 (JAMSTEC 中嶋亮太氏および山形大 高橋和也氏) が受賞しました。

国際水文学計画 (IHP)

第 21 回国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会



第 21 回国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会が 6 月 18 日～20 日にかけて、パリ(フランス)にて開催。我が国からは寶 馨 ユネスコ国内委員会委員・IHP 分科会主査(団長)、立川 康人 ユネスコ国内委員会調査委員 (IHP)、竹内 邦良 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長、鈴木 篤 ユネスコ国内委員会調査委員 (IHP)、村瀬 勝彦 ICHARM 上席研究員、門田 公秀 ユネスコ

代表部公使参事官、北郷 太郎 ユネスコ代表部参事官が出席しました。

次期議長及び副議長の選挙等が行われ、引き続き各議題の審議が行われました。外部資金についての審議では、寶団長から、信託基金等による水科学分野での地域協力、気候変動や災害等に対して学際的、分野横断的な科学協力を強化していきたい旨の発言を行い、このほかにも、ユネスコ IHP40 周年記念についての審議等、様々な議題について活発な討論が行われました。

世界水の日記念式典『水とエネルギーのつながり』

平成 26 年 3 月 21 日に東京・国連大学で、国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) 主催の「2014 年世界水の日記念式典『水とエネルギーのつながり』」が開催されました。国連機関主催の世界水の日
の主要記念式典としては、日本で初めての開催となりました。

式典では、「国連水と衛生に関する諮問委員会」名誉総裁である皇太子殿下のお言葉に続き、太田昭宏国土交通大臣が日本の水に対する考え方と水技術及び日本での経験を踏まえた国際貢献等に関して講演を行いました。ICHARM からは、竹内 ICHARM センター長が水とエネルギーのつながりについて日本の経験を報告しました。デイビッド・マロン国連大学学長、ミシェル・ジャローWMO 事務局長とともに、ユネスコからはハンス・ドヴィルユネスコ事務次長が開会の挨拶を行いました。また、国連水アセスメント計画 (UN WWAP) による世界水発展報告書 (WWDR) の発表式ではブランカ・ヒメネス・シスネロスユネスコ水科学部長による司会の下、世界水発展報告書第 4 版「水とエネルギー」が発表され、松浦日仏会館理事長 (元ユネスコ事務局長) が閉会の挨拶を行いました。

人間と生物圏 (MAB) 計画

ユネスコエコパーク新規 2 件、拡張 1 件登録

平成 26 年 6 月 10 日～13 日、ヨンショーピン (スウェーデン) で開催された第 26 回人間と生物圏 (MAB) 計画国際調整理事会において、我が国から生物圏保存地域 (国内呼称: ユネスコエコパーク) に推薦していた「只見」(福島県) 及び「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県) の新規登録、及び「志賀高原」(群馬県、長野県) の拡張登録が決定されました。これにより、我が国のユネスコエコパークは、あわせて計 7 か所となりました。詳細は、冒頭 TOPICS (P.4) を御覧ください。



その他

ロレアルーユネスコ女性科学賞



平成 26 年 4 月 2 日、科学の分野で目覚ましい業績を挙げた女性研究者を表彰する「2014 年ロレアルーユネスコ女性科学賞」を受賞した、稲葉カヨ京都大学副学長・教授と、「ロレアルーユネスコ女性科学賞 国際奨学金」を受賞した、九州大学大学院医学研究院の小澤未央学術研究員が、下村博文文部科学大臣を表敬訪問し、我が国の女性研究者をとりまく現状等について懇談を行いました。表敬訪問には、上野通子文部科学大臣政務官、板東久美子文部科学審議官、加藤重治国際統

括官、松尾泰樹科学技術・学術政策局人材政策課長が同席しました。

文化分野における取組

世界遺産条約

「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」世界遺産認定書伝達式

4 月 21 日、外務省において、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」世界遺産認定書伝達式が開催されました。伝達式では、昨年 6 月の第 37 回世界遺産委員会における「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の世界遺産一覧表への記載決定を受け、ユネスコより送られた世界遺産認定書が披露され、岸田文雄外務大臣から川勝平太静岡県知事及び横内正明山梨県知事に対し、認定書のレプリカが手渡されました。



川勝静岡県知事への世界遺産認定書伝達

横内山梨県知事への世界遺産認定書伝達

国際世界遺産ユースフォーラム

第 38 回世界遺産委員会開催前にあたる 6 月 4 日～15 日に、ドーハ(カタール)で「国際世界遺産ユースフォーラム」が開催され、カタールの関係機関からの招待を受け、23 か国から 44 人が参加し、我が国からも 2 名の学生が参加をしました。

本ユースフォーラムでは、カタールの考古学的遺跡や世界遺産の見学が行われたほか、遺跡の保全活動などについての議論を行った結果、6 月 15 日の世界遺産委員会開会式においては、日本からの参加者が発表者として選出され、スピーチを行いました。



無形文化遺産保護条約

無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議

平成 26 年 3 月 27 日、外務省において、齋木外務省国際文化交流審議官、河村文化庁次長らが出席の下、無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議が開催されました。会議では、「山・鉾・屋台行事」の無形文化遺産代表一覧表への提案が了承され、提案書がユネスコ事務局に提出されました。

第5回無形文化遺産保護条約締約国会議

平成 26 年 6 月 2 日～4 日に、パリ(フランス)において第5回無形文化遺産保護条約締約国会議が開催され、条約履行に係る運用指示書の改定や無形文化遺産保護条約政府間委員会委員国の改選が行われました。(我が国からの出席者:門司健次郎ユネスコ代表部大使及び同代表部館員、河野俊行九州大学大学院教授ほか、文化庁の事務官)

主な運用指示書の改定内容

- 国内の案件の拡張提案についての規定を追加する。
- 各国から提出された提案書の事前審査について、代表一覧表への提案を審査する「補助機関」と緊急保護一覧表等への提案を審査する「諮問機関」を一元化し、試験的に諮問機関が一括して全てのリストの審査を行う方式とする。



ユネスコ記憶遺産

平成 26 年の審査に付する案件の選定について

平成 26 年 6 月 12 日、日本ユネスコ国内委員会第 128 回文化活動小委員会が開催され、「ユネスコ記憶遺産事業」の審査に付する案件について審議を行い、その結果、「舞鶴への生還 1945～1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」及び「東寺百合文書」の 2 件が選定されました。今後は選定された 2 件について、平成 27 年 5 月～8 月の間に開催される、ユネスコ記憶遺産国際諮問委員会において審議が行われ、最終的にはユネスコ事務局長が登録の可否決定をすることとなります。

その他

国際ジャズデイ 2014

平成 26 年 4 月 30 日、大阪市・大阪城西の丸庭園にて、「国際ジャズデイ 2014 グローバル・コンサート」が開催されました。

国際ジャズデイについては、2011 年 11 月の第 36 回ユネスコ総会において、4 月 30 日を国際ジャズデイと宣言することが

採択されたもので、第 1 回が米国及びパリのユネスコ本部(2012 年)、第 2 回がトルコ・イスタンブール(2013 年)において開催されました。第 3 回の本年は、大阪市・大阪城西の丸庭園に約 30 名のジャズの巨匠が集結し、ユネスコ主催のグローバル・コンサートが開催されました。

本イベントはインターネットなどにより広く配信され、世界中に力強い演奏が届けられました。



©Thelonious Monk Institute of Jazz

各国との交流

韓国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業

平成 26 年 6 月 9 日から 13 日、ソウル及び済州島で「韓国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業」が実施されました。本年は、中国、タイ、ドイツ、ザンビア、日本からユネスコ国内委員会職員が参加しました。各国国内委員会の取組について紹介が行われ、日本の活動に対しては、ユネスコスクールの増加に成功した要因等について質問がなされました。よりテーマを絞ったプレゼンテーションでは、日本からは教育についてを發表し、ESDの日本での推進状況、防災学習が東日本大震災の際に役立った事例等を紹介し、ポスト 2015 教育アジェンダにESDや Global Citizenship Education の観点が取り入れられる方向で進められていることを取上げ、ディスカッションを行いました。

そのほか、ソウルにおいては、アジア太平洋地域国際理解教育センター (APCEIU) を訪問し、エコパーク、世界自然遺産、ジオパークのある済州島においては、山房窟寺、Yongmeori Coast、済州海女博物館、済州世界自然遺産センター等を訪れ、各国と活発な情報交換や意見交換を行いました。



写真提供：韓国ユネスコ国内委員会



民間ユネスコ活動

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

I. 学校関連事業

◆守ろう地球のたからもの

学習教材「豊かな自然編」「豊かな世界遺産編」、絵本「サクラソウのひみつ」を希望する学校に寄贈し、子どもたちへのESDの普及に努めています。〔協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)〕



第38回「みどりの絵コンクール」には全国から28,365点の応募があり、優秀作品9、優秀賞36、入選409を決定。平成25年12月7日、東京で第38回「みどりの絵コンクール」表彰式を開催しました。〔協力：三菱UFJ環境財団〕



◆KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow- カナダとの高校生交流事業

日本経済の再生に向けて、我が国への潜在的な関心を増進させ、日本を訪れる外国人の増加を図ると共に、クールジャパンを含めた日本の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」への国際理解を増進させることを目指す外務省拠出プロジェクトの一環として日本とカナダの高校生の交流事業を受託しました。

平成25年度は、平成26年1月から3月の間にカナダ4地域から25人8グループの計200人(以下参照)を招聘し、日本からも8グループ200人をカナダに派遣し、ホームステイや学校訪問、国内の企業や世界遺産地域の訪問を通じてお互いの社会、文化などを学び、生徒間の交流を深めました。成果として、現在参加した高校のうち3校の間で姉妹校提携の話が進んでいます。

カナダ	日本	招聘時期	派遣時期	受入ユネスコ協会
ブリティッシュコロンビア州 ニュー・ウェストミンスター・セカンダリースクール	大阪府高石市羽衣学園高等学校	5/8-5/17	10/8-10/18	—
アルバータ州 ボール・ケイン高校	山口県岩国市 岩国市内4校 合同 高水学園高等学校・岩国高等学校・岩国商業高等学校・高森高等学校	5/21-5/30	1/3-1/13	岩国ユネスコ協会
アルバータ州 ジョージ・マクドゥーガル高校	大阪府堺市帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校	5/21-5/30	1/3-1/13	—
ブリティッシュコロンビア州 シアコム高校	茨城県立下館第一高等学校	11/21-11/30	3/17-3/27	茨城県西地方ユネスコ協会
ケベック州 ロシュベル高校	京都府立嵯峨野高等学校	3/9-3/18	1/5-1/15	—
ケベック州 ロングイユ高校	北海道立札幌西高等学校・北海道立札幌東高等学校	2/8-2/17	1/5-1/15	—
オンタリオ州 リバーデール高校	奈良女子大学附属中等教育学校	10/20-10/29	2/7-2/17	奈良ユネスコ協会
オンタリオ州 センチニアル高校	茨城県立緑岡高等学校	9/19-9/28	3/17-3/27	水戸ユネスコ協会



II. ユネスコスクール関連事業

- ◆ ユネスコスクールプレートを新規登録校に寄贈しました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕
平成 26 年 6 月現在、国内のユネスコスクール総数は 705 になりました。



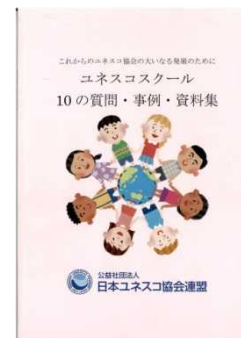
- ◆ ユネスコスクールへの活動助成

第 5 期「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」に 118 校から申請があり、平成 26 年 2 月 28 日に 114 校への助成が決定しました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕

- ◆ 第 4 回「ESD 国際交流プログラム」

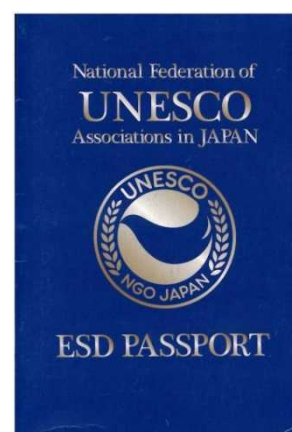
高校生 ESD 作文コンテスト実施した 141 名の中から選ばれたユネスコスクールの高校生 14 名と教員 1 名が、平成 26 年 3 月 22 日からドイツ及びフランスのユネスコスクール、UNESCO パリ本部等を訪問し、交流活動を行いました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕

- ◆ 平成 26 年 6 月に『ユネスコスクール 10 の質問・事例・資料集』を発行し、全国のユネスコ協会に無料配布したほか、1 冊 200 円で販売も行いました。



- ◆ 「ユネスコ協会 ESD パスポート」

学校教育が取り組んでいる「持続可能な開発のための教育(ESD)」の相乗効果を高めるために、ユネスコ協会が児童・生徒のボランティア活動を促進する目的で「ユネスコ協会 ESD パスポート」を使用した教育実践を実施しています。この ESD パスポートを通じて子供たちが地域の課題を主体的にとらえ、解決のために自ら考え、行動する機会を提供し、学校と協働して持続可能な社会づくりと人材育成を目指します。平成 25 年度は、全国で 12 のユネスコ協会が地域の 44 の学校やユネスコスクールと活動を行い、5,129 名が参加しました。また、平成 26 年 6 月 22 日にキックオフ会議が行われました。



◆ サイエンススクール

「いのちと健康」をテーマに生命や科学への興味とその大切さを学ぶ機会として、2011 年より小学校対象の出前授業「サイエンススクール」を実施しています。平成 25 年度は 5 月から 12 月までの間にユネスコスクールを含む小学校 16 校で授業を行い、792 名の子どもたちが出前授業を受けました。授業では、身体メカニズムや薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりなどを体験し、子どもたちが生命や科学に興味を持つきっかけとなりました。〔協力：MSD 株式会社、各地ユネスコ協会〕



Ⅲ. 東日本大震災復興支援活動

◆MUFG-ユネスコ協会復興育英基金

1. 三菱UFJフィナンシャル・グループの資金援助を得て、小学1年から高校3年までの遺児・孤児1,128名に奨学金を給付しています。(平成26年6月現在)
2. 被災した幼稚園、小学校、中学校の花壇を再生するプログラムに三菱東京UFJ銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ(MFUG)と協会連盟の役職員がボランティア参加しています。平成25年度は合計14校、1園に対して実施し、のべ540名のボランティアがMUFGから参加しました。
3. (一社)日本バレーボールリーグ機構の協力を得て、平成26年1月18日に釜石市にてバレーボール教室を開催しました。釜石市立中学校体育館で行った教室には、大槌町に住む釜石市内の中学校計5校から72名の生徒が参加しました。元日本代表のバレーボール選手によるバレーボール指導を受けながら、奨学生及び保護者どうしの交流を行いました。〔現地協力：釜石ユネスコ協会〕

◆ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災によって、著しく経済状況が悪化した家庭の子どもたちのために、これまで15市町村(岩手県陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、下閉伊郡山田町、宮城県気仙沼市、石巻市、南三陸町、東松島市、仙台市、名取市、女川町、山元町、福島県相馬市、南相馬市)の奨学生2,051名に、奨学金を給付してきました。(平成26年6月現在)

◆コミュニティ再生支援

1. 平成25年11月29日～12月1日、音楽を通じた教育支援を実施する日本フィルハーモニー交響楽団と連携し、ミニコンサートと中学校の吹奏学部へのクリニック派遣支援事業を岩手県久慈市、洋野町の被災地で開催しました。〔現地協力：久慈ユネスコ協会、協力：三菱UFJニコス株式会社〕
2. 平成25年12月6日～12月8日、釜石市からの要請を受け、被災から再建した2つの学童保育への支援と津波で被害を受けた、地域間交流による、親子対象の工作講習会を実施しました。現地協力：

釜石ユネスコ協会、〔協力:三菱UFJニコス株式会社〕

3. 平成 25 年 12 月 2 日～12 月 15 日、宮城県松島市にある被災した「のびる幼稚園」へベネッセコーポレーションのスマイルプロジェクトからの協力を受け、伝統芸能体験や親子ふれあい事業を実施しました。〔協力:ベネッセコーポレーション〕

4. 平成 26 年 2 月 28 日～3 月 1 日、山元町からの要請を受け、被災から再建した二つの保育園への支援活動を行いました。また、津波で被害を受けた町内の地域間交流による、親子 100 名を対象にした「未来の山元のまち」マップを描くイベントを実施しました。〔協力:三菱UFJニコス株式会社〕

5. 震災から 3 年たった今、被災地では子どもの学力向上が叫ばれています。学力向上のニーズをくみ取り、2014 年度の新規支援事業として学校からの強い希望があった南相馬市して「辞書引き学習プログラム」を実施予定です。〔協力:ベネッセホールディングス〕

◆ UNESCO「こころに笑顔」プロジェクト

平成 25 年度は、ドイツの化学企業である BASF による支援を受け、UNESCO を通じて、被災地のひとつ、宮城県気仙沼市を対象に学校・コミュニティの復興を支援しました。「学校の震災経験の共有化」を行うため、また震災を経験したユネスコスクールの ESD への取り組みをまとめるために研修会を実施し、報告資料を作成しました。また「市民の震災体験の共有化」を目的に座談会を実施し、報告資料を作成しました。〔協力:BASF〕

IV. 世界寺子屋運動

◆ アフガニスタン寺子屋プロジェクト

カブール、パルワン、バーミヤンの 13 地域で子ども向けの基礎教育クラス、成人向けの識字教育・収入向上支援活動を実施しました。バーミヤン州では、寺子屋 2 棟を拠点に活動しています。平成 25 年 7 月にカブール市 13 地区に新しく完成した寺子屋では、ハザラ系住民の女性や子どもたちが 17ヶ所の民家寺子屋も活用しながら文字の読み書きを学んでいます。

アフガニスタン難民子ども支援としてカブール市内郊外の国内避難民キャンプ 3ヶ所で、冬季を子どもが無事に過ごすための栄養補助を行いました。平成 26 年 5 月からは識字教室が 10 クラス開講。成人男性 80 人と成人女性 340 人が文字の読み書きを学びました。

〔協力:認定 NPO 法人ジャパンプラットフォーム〕



◆アンコール寺子屋プロジェクト(カンボジア)

シェムリアップ州バリン郡に 12 軒目の寺子屋が完成しました。平成 26 年 6 月 12 日に行われた完成式典にはシェムリアップ州知事も臨席しました。その際にベネッセコーポレーションから寄贈のあった新品の子ども用衣類が参加者の子どもたちに配布されました。現在寺子屋では、引き続き識字教育のほか、中途退学した子どもたちへの復学クラス及び親の収入向上活動を実施。自転車や通学バッグ、給食サービスも提供しています。平成 25 年度は 724 人の成人男女と 90 人の子どもが寺子屋で学ぶ機会を得ました。



◆ネパール寺子屋プロジェクト

南部ルンビニの 12 地域およびカトマンズの 4 地域の寺子屋 16 軒で、学校に行けない子どものための小学校クラスと女性のための識字クラスを実施しました。平成 25 年度は 6,183 人の成人女性と 279 人の子どもが寺子屋で学ぶ機会を得ました。

◆「書きそんじハガキ・キャンペーン 2014」

全国から 163 ユネスコ協会が参加し、130 万枚を目標にハガキを回収しました。参加ユネスコ協会向けにハガキ回収事例や寺子屋情報などをまとめたマニュアルを配布。株式会社電通の協力で、新しいキャラクター「書きそんじロー」をフェイスブックやグッズを刷新しました。現在、回収を呼びかける CM が全国 3000 台のタクシー車内の「タクシーちゃんねる」で放映中です。写真は広報特使まなびゲーターの久保純子さん。〔協力:電通、タクシーちゃんねる〕



◆南三陸の森 希望のポストプロジェクト

被災地・南三陸の森の間伐材でつくった「書きそんじハガキ回収ポスト」を全国に広げていく「南三陸の森 希望のポストプロジェクト」。多くの企業・団体から賛同を得て全国100ヶ所に回収ポストが設置されています。また、村田株式会社との協力を得て、防府市内の小・中・高等学校全校にポストが寄贈されました。文部科学省のエントランスホールにも設置していただき、ご協力いただきました。〔協力:電通、村田株式会社、文部科学省〕

◆ユネスコ寺子屋プロジェクト(学校対象プロジェクト)

全国の36校から3,016人が参加し、カンボジアや教育事情について学びながら、書きそんじハガキ回収のリーフレットを作成しました。平成26年3月には奈良教育大学附属中学校の生徒の作品が最優秀作品として選ばれ、同作品は平成27年度の書きそんじハガキ・キャンペーンの公式リーフレットとして活用される予定です。

◆カンボジア・スタディツアー

平成25年度は、ユネスコ協会の会員や一般の学生が世界寺子屋運動の支援先や世界遺産アンコールを視察し、カンボジアの歴史や文化について学び、参加者がユネスコ運動を実践するためのスタディツアーを計6回実施しました。〔主催：H.I.S.〕

◆平成25年10月24日、NHK「日本賞」で、バングラデシュのドゥルーパッド・コミュニケーションが制作する『光あれ』に日本ユネスコ協会連盟賞を贈りました。女性が高等教育を受けることの難しさを描いた作品で、製作費として3,000ドルを支援しています。

V. 一杯のスプーン支援活動

◆アフガニスタン・カブール市内で母子を対象に医療支援・栄養補助食品を配布。毎年、年間8,600人以上が利用しています。そのうち約8,500名は医療を必要とする子どもたちです。



◆ネパール・ルンビニの寺子屋12軒で母子を対象に3ヶ月に1度の巡回医療診断および栄養補助食品を配布しています。

◆カンボジア・シェムリアップ州で貧しい家庭の子どもたちや公立病院で治療を受ける貧しい人びとのために安全な水を供給することを目的に「天空の柱プロジェクト」を開始しました。ペットボトル(500ml)155万本が、シェムリアップ州立病院をはじめ、寺子屋11軒、郡立病院3軒などで病人や子どもたちに届けられました。3年間の事業期間中には、浄水設備や衛生教育に関する教材作成なども実施される。事業開始セレモニーが、平成25年11月22日、シェムリアップ州立病院で開催されました。〔協力：株式会社富山環境整備〕



◆ フィリピン台風 30 号 被災地緊急支援

平成 25 年 11 月 8 日にフィリピンを襲った史上最強の台風 30 号で被災した子どもたちを支援するために、聖心会(The society of Sacred Heart)と協議し、ユネスコ理念への共感と現地で活動している日本人シスターへの信頼という点から、平成 25 年 11 月 25 日に当団体に対して 300 万円の寄付を行いました。

VI. 世界遺産・地域遺産支援活動

◆カンボジア・アンコール遺跡彫像修復プロジェクト

世界遺産「アンコール」遺跡のひとつであるバイヨン寺院のナーガ像やシンハ像の修復活動支援をカンボジア NGO (JST)と協力して行っています。ご寄付いただいた個人や企業の名前を現地の銘板に刻ませていただいています。



◆平成 25 年 12 月、『世界遺産年報 2014』を発行しました。「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」を特集し、新規登録の世界遺産、世界遺産委員会報告などを掲載。全国の図書館等へ寄贈し、書店で販売しています。〔助成:財団法人日本宝くじ協会。〕



◆未来遺産運動

A) 第4回 プロジェクト未来遺産

長い歴史を超えて人々が守り続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中で作りあげてきた自然遺産という豊かな贈り物を未来に伝えていこうという人々を応援。平成 25 年 12 月 9 日に開催された未来遺産委員会にて、以下の 10 プロジェクトの登録が決定しました。

場所	団体名	プロジェクト名
栃木県佐野市	天命鋳物伝承保存会	佐野天明（命）鋳物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動
埼玉県熊谷市	熊谷市ムサシトミヨを守る会	世界で一つだけの「元荒川ムサシトミヨ生息地」保護活動
静岡県三島市	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	ドブ川化した川を市民力を結集して蛍が乱舞する清流に再生・復活
滋賀県近江八幡市	権座・水郷を守り育てる会	湖国の原風景権座水郷を守り育てる活動 （日本の里百選）選定地域
岡山県美作市	NPO法人英田上山棚田団	英田上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田 8300 枚～
岡山県倉敷市	NPO法人倉敷町家トラスト	まちにあかりを灯すプロジェクト
山口県山口市	榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会	榎野川もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト
山口県萩市	NPO萩まちじゅう博物館	萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト
徳島県徳島市	阿波人形浄瑠璃平成座	世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力 未来遺産プロジェクト
福岡県福岡市	和白干潟を守る会	博多湾・和白干潟の自然保護活動



VII. 民間ユネスコ運動の振興

◆ 第70回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床

平成26年6月7～8日、北海道知床で「持続可能な社会の構築を目指して～知床に集おう！ユネスコの英知～」のテーマで約600名が参加しました。大会では石弘之氏による基調講演「世界遺産の危機」をはじめ、「地球環境の保全を知床から考える」をテーマにした専門家によるパネルディスカッションも行われました。また、知床のユネスコスクール4校の高校生によるESDの取り組み事例の発表もあり、それぞれの講演や発表はユネスコ協会の会員が地域で活動するうえで大きな学びになりました。また、本年の大会にも、中国連盟と韓国連盟から代表が参加されました。〔主催：日本ユネスコ協会連盟、北海道ユネスコ連絡協議会、知床ユネスコ協会〕



◆ブロック別ユネスコ活動研究会を下のとおり、北海道、東北、関東、中部西、近畿、四国ブロック各地で開催。「民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて」について協議を重ね、会員の研鑽を深めました。

関東ブロック・ユネスコ活動研究会（埼玉県越谷市）	平成25年10月5～6日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会（新潟県新潟市）	平成25年10月5～6日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会（北海道帯広市）	平成25年10月19～20日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会（石川県金沢市）	平成25年10月26～27日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会（香川県多度津町）	平成25年11月16日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会（大阪府大阪市）	平成25年11月23日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会（宮崎県都城市）	平成26年2月8～9日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会（広島県広島市）	平成26年2月8～9日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会（神奈川県鎌倉市）	平成26年3月8～9日

VIII. UNESCO との連携

◆UNESCO パリ本部とのパートナーシップ協定

平成24年2月にUNESCOパリ本部と締結したUNESCOパートナーシップ協定により、日本国内の企業・団体・個人からの支援によってUNESCOのプログラムを支援する枠組みができました。平成25年9月には、ANAが協力企業となり、UNESCO関係者の渡航協力やマイレージプログラムを活用したUNESCOへの寄附を行っています。〔協力：ANA〕

◆UNESCO パリ本部の表敬訪問

平成 26 年 3 月 3 日、野口昇日本ユネスコ協会連盟理事長が UNESCO パリ本部にて、ボコバ UNESCO 事務局長を表敬訪問し、松田昌士会長からの事務局長再選への祝意を伝えるとともに、UNESCO 芸術賞基金について協議を行いました。

Ⅹ. 普及広報活動

◆日ユ協連ホームページにて活動ニュースやブログなどで情報を定期的に発信しています。

◆フェイスブックでは、世界寺子屋運動、世界遺産、東日本大震災の支援地の情報、トピックスなどをいち早く発信しています。登録者は、平成 26 年 6 月末時点で 2,005 名。

<http://www.facebook.com/unesco.or.jp>

◆機関誌「ユネスコ」7月号を発行しました。

◆ユネスコ情報マガジン（メール配信）第 194～200 号を発行しました。



公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく

ACCU はアジア太平洋地域の人々と共に学びの輪を広げます

<人をつなげる、未来をつなげる>

ユネスコの精神を実現する学校、地域、人のネットワークの拡大と充実のために・・・

◆ユネスコスクールを応援しています

文部科学省の委託を受け、事務局としてユネスコスクール公式ウェブサイト運営し、ユネスコスクール加盟を検討している学校の相談窓口となり、また申請の事務手続きのサポートを行っています。

<http://www.unesco-school.jp/>

海外のユネスコスクールとの交流をサポートします！



<http://www.unesco-school.jp/startexchange.jp/>

「世界中のユネスコスクール・ネットワークを活用し、海外の学校、児童生徒間、教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」を身近に、簡単に実践してもらえるように、ユネスコスクール公式ウェブサイト内に、マッチングサイト「はじめてよう！学校間交流」を立ち上げました。日本のユネスコスクールのみならず、海外のユネスコスクールへの広報も行い、ユネスコスクール同士の活発な交流が進むようにサポートしています。

今年度は ESD ユネスコ世界会議関連で行われるユネスコスクール世界大会開催に協力して、「教員フォーラムの企画運営」と「宣言の策定及び優良活動事例集の作成」を行います。11月の実施を前に、関係各所と連絡をとり、準備会議を行っています。（文部科学省委託）

これまでユネスコスクール間および地域拠点間ネットワーク強化のために開催してきた「ユネスコスクール地域交流会」で発表された事例を ESD 実践事例集として制作し、全てユネスコスクール公式ウェブサイトで公開しています。

◆持続可能な開発のための教育(ESD)を推進しています

「国連 ESD の 10 年」の最終年である平成 26 年(2014 年)を迎え、この 10 年の活動を総括し、その後の発展を議論するための「ESD に関するユネスコスクール世界会議」が愛知県名古屋市で、また各種ステークホルダー会合が岡山市で開催されます。

ACCU は 2014 年の世界会議への協力のほか、ユネスコスクールをはじめとする学校の内で、また、学校の外や地域で、今後も ESD を普及・推進するために、教材を紹介したり、各方面からの要望に応じて講師を派遣するほか、以下のような活動を行っています。

国際プロジェクト／ESD Rice プロジェクトの実施

お米とそれを取り巻く状況は、農業だけでなく、生物多様性や気候変動、食の安全、経済、文化など多彩な切り口から考えられ、持続可能な開発のための教育(ESD)の豊かな題材です。お米を共通のテーマに、アジアのユネスコスクール間の国際交流とネットワーク作りを進め、学校と地域が連携したESDの推進を目指しています。

今年4月からは国際共同学習が実施されてESD社会の創造を担う若者の育成を推進しています。昨年12月行ったタイで価値観と実施の方法論について学びあったワークショップに続き、2回目のワークショップを9月にインドネシアで開催し、その成果をユネスコスクール世界大会で参加者に共有するために事前調査や連絡調整を行っています。7月には韓国の学校現場を訪ねて調査を行い同じ目的に向かって活動するための連帯を強めました。

参加学校の取組みはウェブサイト、ガイドブック(日本語・英語)にまとめています。

ESD Rice ウェブサイト <http://www.esdriceproject.com/>

※ユネスコの委託により本事業を実施

パキスタンで若者主体のコミュニティ開発のための事業の実施

開発途上国で特に教育の機会に恵まれない人々の多い地域において、ESDとEFAの両方の視点からパイロット事業をパキスタンで実施するために事前調査を行いました。現地の協力団体と必要な学びについて意見交換を行い、12月に予定している支援と事業分析のための会議の準備を進めています。(事前調査:6月22日から28日パキスタン・ラホール)(平成26年度政府開発援助ユネスコ活動補助事業)



公民館とアジアのCLC(コミュニティ学習センター)の交流

「ESDに関するユネスコスクール世界会議」の一環として「ESD推進のための公民館・CLC会議」が10月に岡山市で開催されます。アジアとの相互交流のためにコミュニティにおいて中心となる人づくりについてさまざまな議論を行う予定で準備しています。

※岡山市の委託により本事業を実施

ESDをテーマにした教職員の国際交流

-中国に日本人教職員を派遣しました

ACCUでは日韓、日中間で初等中等教職員交流プログラムを実施しています。

中国教育部協力のもと、「中国政府日本教職員招へいプログラム」を実施しました。

このプログラムでは、50名の日本人教職員等が北京市と貴州省貴陽市の学校や文化施設を訪問し、児童との交流、両国の教職員相互の意見交換などを通して、両国の相互理解と友好を推進しました。(平成26年5月18日～25日)



-韓国に日本人教職員を派遣します

平成 26 年 1 月に実施した韓国教職員招へいプログラムを受け、韓国ユネスコ国内委員会協力のもと、「韓国政府日本教職員招へいプログラム」を実施に向けて準備をしています。(平成 26 年 8 月 26 日～9 月 1 日予定)。

訪韓に先立ち 7 月 30 日にオリエンテーションを実施しました。韓国の教育について学び、発表や交換授業の計画を練るなど、訪問の準備を整えました。派遣される日本教職員はソウルのほか、忠清北道または江原道を訪問し、学校訪問等により韓国での ESD の実践事例を視察します。

招へい事業については、中国教職員は、合計 130 名を 3 回に分け、それぞれ平成 26 年 9 月 21 日～29 日、10 月 19 日～27 日、11 月 16 日～24 日に、韓国教職員は 100 名を平成 27 年 1 月 18 日から 26 日に招へい予定で準備を進めています。

※国際連合大学の委託により、本事業を実施

-日米教員交流を実施しました

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)の委託により、日本側運営団体として「ESD 日米教員交流プログラム」を行いました。

このプログラムは、選抜された日米の教員が相互に約 2 週間相手国を訪問し、交流を行うことで日米の教育交流と ESD の推進を図ります。学校訪問、児童生徒との交流、教育関連施設視察、ホームステイ等を通じて、お互いの文化を知ると共に、日米両国で協力して、教材制作、研究活動、授業等の計画を立てるために、日本の教員が米国を訪問した 5 月には米国の教員がサンフランシスコに参集し、また米国の教員が日本を訪問した 6 月には日本の教員が東京に参集して、それぞれ 3 日間の合同会議が開催されました。この会議には過去の参加者の一部も事例発表者とグループプログラムのファシリテーターとして参加し、年度を越えた交流も図っています。

平成 26 年 4 月 25 日から 5 月 10 日にかけて 24 名の日本の教員を米国へ派遣、平成 26 年 6 月 17 日から 7 月 1 日には、24 名の米国の教員を日本に招へいしました。米国教員 24 名は、東京都のほか、北海道釧路市または和歌山県橋本市に滞在し、学校訪問を中心に、日本の ESD の実践を学び、交流活動を行い、それらを踏まえて、6 月 27 日から 29 日に開催された合同会議では、日米教員が共に進めるプロジェクトの企画を立てました。

※日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)の委託により、本事業を実施

◆次世代のグローバルリーダーを応援しています(模擬国連推進事業)

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人／グローバルなリーダーを育成することを目的に大学生を中心に構成するグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連の推進事業を実施しています。



このプログラムは英語によるプレゼンテーション能力はもとより、交渉を通じてより良い解決策をさぐるなど課題に対する総合的な処理能力を鍛えること、同世代の交流を通じてコミュニケーション力を高めることを通じてグローバルな社会を担う未来のリーダーを育てることを目的としています。

平成 25 年 11 月に開催された第 7 回全日本高校模擬国連大会で優秀な成績を収めた 6 チーム 12 名の高校生を平成 26 年 5 月に米国ニューヨーク市で開催されたグローバル・クラスルーム高校模擬国連国際大会に派遣しました。本大会の開会式、

閉会式は国連本部で開催されました。日本代表団はクウェート国を担当し、渋谷教育学園幕張高等学校が日本で初めての最優秀論文賞を受賞するなど、優秀な成績を収めることができました。

7月から本年11月に開催される第8回全日本高校模擬国連大会に向けて、課題を発表し、広く高校生に参加を呼びかけています。

＜すべての人に教育を、すべての人に笑顔を＞

ユネスコの推進するEFA(Education for All、万人のための教育)の目標を達成するために・・・

◆母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトを推進しています

「読み書きを学び、子どもに勉強を教え続けたい。自分がモデルとなり、子どもが学校に通うように励みたい。」「自分の子どもの名前を書けるようになりたい。」「子どもを健康に育てるための食事について学びたい。」そんな思いを胸に、小さな子どもたちを育てるカンボジアのお母さんたちは、SMILE Asia プロジェクトの識字教室に通っています。

SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの7か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で、識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。



平成26年5月にカンボジア・プノンペン郊外の識字教室で行なわれている授業を視察し、実施団体と現行プロジェクトの評価を行い、今後の展開について意見交換を行いました。

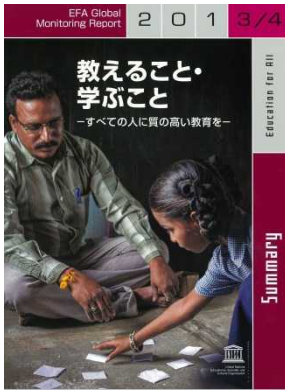
このプロジェクトは凸版印刷株式会社をはじめ、皆さまからのご寄附により行っています。

口座名	ACCU アジアの女性識字振興基金
口座番号	00120-7-365298(ゆうちょ銀行)

また、ACCU がアジアの識字教育のために制作した識字アニメーション教材『ミナ笑顔』は日本国内でも小中学校、高校の総合の時間などで教材として活用されています。

◆アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトへ職員を派遣しています

JICA(独立行政法人国際協力機構)が実施しているアフガニスタン国識字教育強化プロジェクトに職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。治安状況の問題により、アフガニスタンで実施できない場合はパキスタンなど第三国で教育省職員の研修等を行います。



◆世界の識字状況を知ってもらうためにデータを公開しています。

ユネスコのグローバルモニタリングレポート「2013/14 概要（テーマ:教えること・学ぶことーすべての人に質の高い教育を）」の日本語版をJICA、教育協力NGOネットワークとともに発行しシンポジウムを開催しました。ACCUの職員がカンボジアで実施しているSMILE Asiaプロジェクトの事例を発表しました。(5月18日、JICA市ヶ谷ビル国際会議場にて)

同レポートは希望者に配布し、教育現場で活用されています。ご希望の方はACCU教育協力部 education@accu.or.jp まで、メールにてご連絡ください。

<共にひきつぐ、文化と伝統>

奈良にある文化遺産保護協力事務所(ACCU奈良事務所)では、ユネスコやICCROM(文化財保存修復研究国際センター)など国際機関と連携して、専門家育成のための研修、文化遺産保護に関する情報発信などを行っています。

◆文化遺産保護の大切さを知ってもらうために...

奈良県内の高校で日本や諸外国の世界遺産を題材に「世界遺産教室」を開催しました。世界遺産を通じ、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらうことをめざして平成17年から毎年行っています。(平成26年5月13日奈良市立一条高校、6月4日奈良県立奈良朱雀高校、6月11日奈良県立高田高校、6月16日奈良県立高取国際高校)。

※奈良県・奈良市補助金により、本事業を実施



◆文化財の保存修復を担う人材育成のために...

アジア太平洋地域16か国16名の専門家を招き、「遺跡・遺物の調査と保存」をテーマに一か月にわたって集団研修を実施するために準備しています。(平成26年9月2日～10月3日予定)。

※文化庁からの委託により、本事業を実施

なお、過去に研修に参加したアジア太平洋の専門家に自国の文化財保護活動について報告してもらい、第13回 ACCU Nara International Correspondent としてまとめています。ACCU奈良事務所のウェブサイトからダウンロード可能です。

平成25年度の取り組みを文化遺産ニュース Vol.26 にまとめ、3月に発行しました。

<東日本大震災募金活動>

ACCUは東日本大震災で被災された方々のお役にたてるよう、教育復興の支援に取り組み、ACCUウェブサイト、ユネスコスクール公式ウェブサイトでご協力をよびかけ募金を行っています。この募金は全額被災地の教育復興のために使っていただいています。

引き続き募金の継続を呼びかけ、長期的な支援をめざします。

◆東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金

三菱東京 UFJ 銀行	ゆうちょ銀行
支店名:神楽坂支店(店番号:052)	口座記号番号:00120-1-718642
口座番号:0057529 預金名:普通預金	口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	

<ACCU 広報活動>

◆ACCU ライブラリー

これまでの事業で制作・収集したアジア太平洋の文化・教育に関する資料を所蔵し公開してきました。平成 26 年 5 月にライブラリースペースの規模を縮小し、大学図書館や関連団体に寄贈するなど書籍・資料の整理を行い、現在は ACCU の制作物を中心に所蔵しています。

公益財団法人日本漢字能力検定協会からのご支援を得て閲覧希望や貸出対応など運営は継続しています。国際理解・持続可能な開発のための教育(ESD)関係の資料として活用していただけるよう環境を整えていきます。

また、アジア各国の識字教材を貸出し、学園祭などで展示発表を行って、募金活動に協力いただいています。



◆パンフレット、機関紙 ACCU ニュース、ウェブサイト、Facebook を活用して、ACCU の活動内容、最新情報を伝えています。

ACCUnews 392 3月発行 特集 日中・日韓教職員交流を支える人々

ACCUnews 393 7月発行 特集 ACCU の教育協力 アフガニスタンのいま

【ウェブサイト】 <http://www.accu.or.jp>

【Facebook】 <http://www.facebook.com/accu.or.jp>

【奈良事務所ウェブサイト】 <http://www.nara.accu.or.jp/>

< 日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料 >

1. 国際会議等一覧

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第14回 JCOMM 国内連絡会	26.3.13 (東京)	JCOMM 関連の国際的動向について報告が行われた。また、アルゴ、船舶、ブイ等海洋の現場観測の実施・観測結果の通報状況等の情報交換を行った。	気象庁、海上保安庁、防衛省、海洋研究開発機構、水産総合研究センター及び東京大学関係官
第194回ユネスコ執行委員会	26.4.2-15 (パリ・フランス)	第37回ユネスコ総会での議論を踏まえた中期戦略文書のテキストの最終版確認や、2015年以降の世界的な開発アジェンダ策定の動きの中での教育アジェンダの検討状況などについて議論した。	門司健次郎ユネスコ代表部大使及び同代表部館員、加藤重治文部科学省国際統括官ほか
ICG/PTWS 南シナ海地域作業部会第3回会合(WG-SCS-III)及び南シナ海地域津波情報センタータスクチーム会合	26.4.7-9(香港・中国)	南シナ海における地域津波警報センター設立に向け、情報の内容等につき検討が行われた。また、域内でのデータ共有、トレーニング等の開催について議論が行われた。	小泉岳司気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官、上山哲幸同国際津波情報係長
第8回 DESD 最終年會合タスクフォース	26.4.17 (パリ・フランス)	2014年「ESDに関するユネスコ世界會議」に向けて、會議の詳細について議論した。	岩本涉文部科学省参与ほか
第5回無形文化遺産保護条約締約国会議	26.6.2-4 (パリ・フランス)	条約履行に係る運用指示書の改定や無形文化遺産保護条約政府間委員会委員国選挙が行われた。	門司健次郎ユネスコ代表部大使及び同代表部館員、河野俊行九州大学大学院教授ほか、文化庁の事務官
第26回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会	26.6.10-13 (ヨンショーピン・スウェーデン)	生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク)の新規登録についての審議等。我が国から推薦していた「只見」(福島県)及び「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)の新規登録、及び「志賀高原」(群馬県、長野県)の拡張登録が決定。	松田裕之日本ユネスコ国内委員会調査委員、野田文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官ほか
第38ユネスコ世界遺産委員会	26.6.15-25 (ドーハ・カタール)	「世界遺産一覧表」への記載物件の審議や、一覧表記載物件の保全状況の審査等。我が国から推薦	門司健次郎ユネスコ代表部大使、青柳正規文化庁長官、

		していた「富岡製糸場と絹産業遺産群」を含む計 26 件について、世界遺産一覧表への記載が決定。平成 26 年 6 月現在、世界遺産の登録総数は 1007 件(文化遺産 779 件、自然遺産 197 件、複合遺産 31 件)。また、本委員会に先立って、カタール主催による「国際ユースフォーラム」が開催され(26.6.4-15)、日本から 2 名が参加。	齋木尚子外務省国際文化交流審議官、山下和茂文化庁文化財部長、大澤正明群馬県知事ほか
第21回国際水文学計画(IHP)政府間理事会	26.6.18 -20 (パリ・フランス)	次期議長及び副議長の選出があった。また、外部資金に係る活動報告や IHP40 周年記念などについて議論が行われた。	寶 馨 ユネスコ国内委員会委員・IHP 分科会主査、立川康人ユネスコ国内委員会調査委員、門田公秀ユネスコ代表部公使参事官ほか
第 4 回国際ステアリンググループ(ISG)会合	26.6.24-25 (パリ・フランス)	2014 年「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、会議の詳細について議論した。	佐藤禎一前日本ユネスコ国内委員会副会長、岩本涉文部科学省参与ほか
第 9 回 DESD 最終年会合タスクフォース	26.6.27 (パリ・フランス)	2014 年「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、会議の詳細について議論した。	岩本涉文部科学省参与ほか

(参考)IOC 協力推進委員会、分野別専門部会等

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容
2014 年度日本海洋学会春季大会	26.3.26-30 (東京海洋大学品川キャンパス)	IOC-WESTPAC の概要について、文部科学省研究開発局海洋地球課 木村深海地球探査企画官より紹介があった。
第 7 回 IOC 協力推進委員会	26.6.11 (JAMSTEC 東京事務所)	第 6 回 IOC 協力推進委員会以降の進捗状況について情報交換を行うとともに、第 47 回 IOC 執行理事会への対応について討議を実施した。

2. ユネスコ関係者来日一覧

年月日	来訪者	内容
26.6.27	チュライラット・サングブーンム氏 (Ms. Churairat Sangboonnum) タイ・ユネスコ国内委員会事務総長 (タイ教育省事務次官補)	日本の学校教育政策について加藤国際統括官と意見交換を行った。

3. 国内委員会会議

年月日	会議名	主な内容
26.2.28	第126回文化活動小委員会 (メール審議)	・ユネスコ記憶遺産の我が国からの申請案件への対応について
26.3.18	第134回日本ユネスコ国内委員会	・日本ユネスコ国内委員会の活動について(報告) ・第37回ユネスコ総会について(報告) ・「ESDに関するユネスコ世界会議」に向けた準備について(報告) ・木曾前ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の帰朝挨拶(報告) ・多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化について(提言案) ・ユネスコ記憶遺産について(報告) ・日本ユネスコ国内委員会広報大使について ・日本ユネスコ国内委員会の構成について
26.4.7	第127回文化活動小委員会 (メール審議)	・ユネスコ記憶遺産の平成26年申請の選定に関する方針について ・ユネスコ記憶遺産選考委員会の構成について
26.4.22	第146回選考小委員会	・委員候補者の選考について
26.5.7	第29回MAB計画分科会 (メール審議)	・MAB計画国際諮問委員会勧告への対応について
26.5.20	第30回MAB計画分科会	・第26回MAB計画国際調整理事会への対応について
26.5.20	第8回ユネスコ記憶遺産 (MoW)選考委員会	・ユネスコ記憶遺産平成26年申請の選定について
26.6.4	第29回IHP分科会	・第21回IHP政府間理事会への対応について
26.6.19	第64回IOC分科会	・第47回IOC執行理事会への対応について

4. 国内委員会委員人事

発令日	氏名	所属・職名
(退任) 26.4.21	福成 菜穂子	釜石ユネスコ協会理事

5. 国内委員会事務局人事異動

発令日	氏名	異動後所属・職名	異動前所属・職名
26.4.1	野田 孝夫	文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官	大臣官房国際課国際協力企画室人物交流専門官
	杉江 達也	文部科学省国際統括官補佐	高等教育局専門教育課専門官
	庄司 正人	文部科学省国際統括官付専門官	科学技術・学術政策局政策課国際戦略室専門職

6. 日本/ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省では、ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、日本ユネスコ国内委員会で重視している事業を国内のユネスコ活動に関係のある機関及び民間団体等へ委託し、広く国民のユネスコ活動への参加の促進、更にはユネスコ活動の普及と理解の促進を図るため、日本/ユネスコパートナーシップ事業を実施しています。

【平成 26 年度実施事業】(委託総額:47 百万円)

(事業テーマ)

ユネスコスクール活動に基礎を置いた持続可能な開発のための教育(ESD)の普及・促進のための活動の実施

○ASPUnivNet 運営管理事業(国立大学法人岡山大学)

○ユネスコスクール事務局運営及びユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))

○世界遺産学習全国サミットの開催を含む ESD 並びに世界遺産学習の普及・推進事業(奈良市)

○ユネスコエコパークを活用した ESD 教材の開発(国立大学法人横浜国立大学)

7. ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)

文部科学省では、本年度から、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的として、本事業を実施しています。

本年度の補助対象となるコンソーシアムを決定しました。詳細は、「TOPICS」を参照。

8. 政府開発援助ユネスコ活動費補助金

文部科学省では、民間ユネスコ活動への助成を通じて、我が国のユネスコ活動の進展並びにユネスコを通じた交流の促進に寄与することを目的として、民間のユネスコ活動の振興に資する事業を行う団体に対して、「政府開発援助ユネスコ活動費補助金」(アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業)による補助を行っています。

(1)平成 25 年度事業実績

・事業規模: 82 百万円

・実施件数: 10 件

○アジア6カ国の教育政策における「21 世紀型スキル」の比較分析と参加型教育政策データベースの構築(東京工業大学)

○アジア太平洋地域の持続可能性に向けた水の安全保障に関する国際協力事業(京都大学)

○カンボジアにおける持続可能な発展のためのエネルギー科学教育の推進(京都大学)

○アジア生物資源の持続可能な利用に向けた UNESCO 国際大学院研修講座ネットワーク再構築と基盤バイオ技術構築(大阪大学)

○教育行財政のガイドブック作成-インドシナ諸国の基礎教育に焦点を当て-(神戸大学)

○ブータン王国における有形文化遺産および無形文化遺産保護のための法整備支援事業(九州大学)

- 消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
- インクルーシブ教育の質向上に資するユネスコ及び教育省担当官能力開発事業(早稲田大学)
- ESD 推進のためのノンフォーマル教育・学校教育の連携:アジア太平洋地域におけるコミュニティと学校のパートナーシップによる ESD 実践のための専門家ワークショップの開催(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)
- ミャンマーにおける ESD 推進のための防災教育支援事業(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

(2)平成 26 年度実施計画

- ・事業規模: 57 百万円
- ・平成 26 年 1 月 8 日～2 月 10 日の期間で公募を行い、4 月 1 日付けで交付決定を行った。(採択件数:9)
- IOOC/WESTPAC における地域海洋学トレーニングセンター設置準備活動(東京大学大気海洋研究所)
- アジア・太平洋地域6カ国の教育現場における「21 世紀型スキル」育成のための教育活動の現状分析及び参加型教育政策データベースの活用促進(東京工業大学)
- 第 24 回ユネスコ国際水文学(IHP)トレーニング・コース「Forest Hydrology - Conservation of Forest, Soil and Water Resource(森林水文学 - 森・土・水の保全のために)」(名古屋大学)
- ミャンマーにおける持続可能な発展のためのエネルギー科学教育の推進(京都大学)
- アセアン4カ国における教育行財政研修ガイドブックの検証と活用(神戸大学)
- ブータン王国における無形文化遺産および有形文化遺産保護法整備及び普及支援事業(九州大学)
- ユネスコ・教育省・研究者共同によるインクルーシブ教育質向上プログラム(早稲田大学)
- 消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
- 若者主体の持続可能なコミュニティ開発のための学びパイロット事業(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

9. 日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
未来遺産運動	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	25.3.29～26.3.31 (25.4.15～26.3.31)
第25回MOA美術館児童作品展	財団法人エム・オー・エー美術・文化財団	25.3.21～26.3.31 (25.4.10～26.3.31)
PIECE OF PEACE 「レゴブロック」で作った世界遺産展 Part.3	PIECE OF PEACE 実行委員会	25.3.29～26.3.31 (25.4.6～4.22、25.4.27～5.13)
守ろう地球のたからもの	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	25.4.25～26.3.31 (25.4.25～26.3.31)
「地球っ子広場」活動事業	公益財団法人五井平和財団	25.6.11～26.3.31 (25.4.1～26.3.31)

PIECE OF PEACE レゴで作った世界遺産展 part.3 (宇都宮、富士)	PIECE OF PEACE 実行委員会	25.10.22～26. 4.13 (25.10.22～26.4.13)
「ユネスコスクール高校生作文コンテスト」/「第 4 回ESD国際交流プログラム」	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	25.10.28～26.3.29 (25.11.1～26.3.29)
2013年度(第5期)ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	25.11.5～26.3.31 (25.11.13～26.3.31)
「第 70 回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床」	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、北海道ユネスコ連絡協議会、知床ユネスコ協会	25.12.27 ～26.6.8 (26.6.7～6.8)
「世界一大きな授業 2014」	教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)	25.12.27～26.5.18 (26.4.21～5.18)
「2014 年度国際ユース作文コンテスト」	公益財団法人五井平和財団	26.1.20～12.11 (表彰式:26.12.11、 募集期間:26.1.31～6.15)
「アジア青年未来プロジェクト」岡山総括会議	特定非営利活動団体岡山県国際団体協議会	26.1.23～1.30 (26.1.25～1.30)
PIECE OF PEACE レゴで作った世界遺産 part3	PIECE OF PEACE 実行委員会	25.12.12 ～26.5.11 (25.12.12 ～26.5.11)
日光の社寺ポスター	世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会	25.11.22 ～27.3.31 (25.11.22 ～27.3.31)
道の駅「柿の郷くどやま」内 世界遺産情報センターの看板	和歌山県九度山町	26.3.4 ～板面内容変更、老朽等による差替または撤去の日まで
「富士山」世界遺産登録記念誌	富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議	26.3.5 ～26.4.30 (26.3.5 ～26.4.30)
宮崎国際ジャズデイ	宮崎国際ジャズデイ実行委員会、宮崎市民文化ホール	26.3.3～26.4.30 (26.4.19 ～26.4.30)
JAZZ AUDITORIA 2014	JAZZ AUDITORIA 実行委員会	26.3.7～26.4.30 (26.4.27 ～26.4.30)
エコ絵日記コンテスト 2014	パナソニック株式会社	26.3.24～26.11.12 (26.4 ～26.11.12)
第11回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」	一般社団法人 日本損害保険協会	26.3.27～27.3.31 (26.4.1 ～27.3)
「アンネ・フランク展:希望の未来」	ホロコースト記念館	26.3.14 ～28.3.31 (26.3.15 ～28.3.31)
第26回MOA美術館児童作品展	公益財団法人 岡田茂吉美術文化財団	26.3.31 ～27.3.31 (26.4.20 ～27.3.31)
PIECE OF PEACE レゴで作った世界遺産展 part.3 (静岡、大阪)	PIECE OF PEACE 実行委員会	26.4.16～26.8.31 (26.5.23～26.8.31)

守ろう地球のたからもの	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.4.25～27.3.31 (26.4.25～27.3.31)
第46回ユネスコ子どもキャンプ	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.4.25～26.8.9 (26.8.6～26.8.9)
Kyoto Intercultural Summer School for Youths	特定非営利活動法人パングエア	26.5.12～26.8.5 (26.7.31～26.8.5)
第61回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール	外務省、公益財団法人日本国際連合協会	26.5.29～26.10.20 (26.4.1～26.10.20)
第54回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト	外務省、公益財団法人日本国際連合協会	26.5.29～26.10.24 (26.4.1～26.10.24)
「地球っ子広場」活動事業	公益財団法人五井平和財団	26.6. 4～27.3.31 (26.4. 1～27.3.31)
国際農学ESDシンポジウム2014(Ag-ESD Symposium2014)	国立大学法人筑波大学	26.6. 4～26.11.14 (26.11. 10～26.11.14)
2014年度 第9回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」	日本ロレアル株式会社	26.4.16 ～26.12.31 (25.11.18～26.12.31)
International Jazz Day 2014	大阪国際音楽フェスティバル実行委員会	26.4.8～26.4.30 (26.4.30 ～26.4.30)
第35回記念世界健康フォーラム2014・大阪「健康寿命をのばそう」ー生き方上手で元気に長生きー	NPO法人世界健康ボランティア研究会	26.7.1～26.11.30 (26.11.13～26.11.13)

映画「坑道の記憶 ～炭坑絵師・山本作兵衛～」の上映	RKB 毎日放送株式会社	26.6.25 ～28.3.31 (26.7.5 ～28.3.31)
第101回日本エスぺラント大会	一般財団法人日本エスぺラント協会、福井エスぺラント会	26.6.25 ～26.10.13 (26.10.11～26.10.13)

9. ユネスコスクール新規加盟校一覧

◆ユネスコスクール加盟状況(平成26年2月現在) 加盟校数:705校

(幼稚園18、小学校364、中学校166、中高一貫校等38、高校102、大学5、高等専門学校1、特別支援学校2、その他9)

平成26年2月27日付け承認(30校)

- ・新潟大学教育学部附属幼稚園
- ・白石市立深谷小学校
- ・高岡市立成美小学校
- ・勝山市立荒土小学校
- ・勝山市立北郷小学校
- ・勝山市立鹿谷小学校
- ・勝山市立成器南小学校
- ・勝山市立成器西小学校
- ・勝山市立野向小学校
- ・勝山市立平泉寺小学校
- ・勝山市立三室小学校
- ・勝山市立村岡小学校
- ・北名古屋市立師勝小学校
- ・東浦町立藤江小学校
- ・豊中市立千成小学校
- ・広島市立畑賀小学校
- ・福岡市立百道浜小学校
- ・綾町立綾小学校
- ・前橋市立第六中学校
- ・藤岡市立東中学校
- ・見附市立南中学校
- ・勝山市立勝山中部中学校
- ・勝山市立勝山南部中学校
- ・勝山市立勝山北部中学校
- ・豊橋市立石巻中学校
- ・綾町立綾中学校
- ・名古屋市立名東高等学校
- ・名古屋市立名古屋商業高等学校
- ・東邦高等学校
- ・広島県立御調高等学校



今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育（ESD）

日本ユネスコ国内委員会（文部科学省国際統括官付）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111（内線 2937）

e-mail: jpnatcom@mext.go.jp

<http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

facebook: <http://www.facebook.com/jpnatcom>

ESD facebook: <https://www.facebook.com/esdjpnatcom>